

「ラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2021年12月1日放送分・大町五丁目新丁／立町通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 「奥州街道を江戸へ！」シリーズの旅を終えた私と木村さん。中心部「芭蕉の辻」に戻って、今度は北に出発です。
- 河原町までの奥州街道は、何度も力ク力クと折れ曲がりました。防衛上の理由もありますが、広瀬川が蛇行しながら城下町に切れ込んで来るためです。対照的に「芭蕉の辻」から北の奥州街道は、青葉神社まで真っすぐです。道幅もほとんど変わりません。繁華街の向こうに北山の森が見えます！地形上の制約＆防衛上の必要がないから…というのがその理由です。
- その奥州街道=現在の国分町通は、国分氏という領主に従っていた半士半農の人々が江戸時代以降、移り住んだ町ということでした。馬をよく扱う人々で、交通の要衝をあてがわれ、仙台藩の伝令を任せられました。
- 辻標は北東に進んだ広瀬通沿い、フォーラスの東側です。電力ビルの裏(=西側)の細道は江戸時代、北まで通り抜けできない行き止まりでした。明治時代に当時の「立町通」(現在の広瀬通の一部)まで突き抜ける新しい横丁が造られたため「大町五丁目新丁」と呼ばれました。
- 〈文・佐々木淳吾〉

